

とりもどそう！ 河北潟
泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

かほくがた

CONTENTS

河北潟クリーン作戦・南岸での実施	1p
第21回トム・ソーヤースクール 企画コンテストに参加	2p

「ハッタミミズ」保全活動	3p
その他活動報告	4p

「第28回河北潟クリーン作戦」新しい地点（河北潟南岸）での実施

2022年4月17日に開催された第28回河北潟クリーン作戦では、河北潟に流れ込む森下川の河口左岸側から南西にまっすぐのびる湖岸沿いを新たな地点として追加しました。これまで、駐車場が近くにないことや、アプローチが大変なことから実施してきませんでしたが、河北潟を漂流している多くのゴミがこの場所に溜まっています。河北潟からゴミをなくすためには、この地点をいつまでも避けているわけにはいきません。今回、河北潟クリーン作戦実行委員会で話し合い、侵入ルートや駐車スペースの確保を工夫して実施することができました。この地点だけで、約400kgものゴミ

が集まりました。

ゴミは景観が悪くなるだけでなく、生態系にも深刻な影響を与えることが指摘されています。水辺や水面・水底に散在するゴミは、魚などが餌と間違えて食べる可能性があります。河北潟の実態は調べられていませんが、ゴミに依存している様子の病気のタヌキは時々見られます。プラスチックによる海洋汚染が海の生物に与える影響も深刻です。河北潟のような河口にある湖でのゴミ拾いは、海洋に拡散する前に回収できる点でも大事です。637名の協力・連携により、2022年は、約3トンのゴミが河北潟から回収されました。

トム・ソーヤースクール企画コンテストに参加

ひと昔前の子どもたちは自主的に河北潟で魚介類をとって食べ、湖で泳いだり舟を漕いだりしていました。しかし現在は子どもたちだけで河北潟にいくようなことは難しくなり、自然の中で自ら遊びをつくりだしたり、発見したり、感動したりすることがなかなかできなくなりました。子どもたちと自然の結びつきは少なくなり、近くに住んでいても河北潟のことを知らない子どもたちも多くみられます。当団体は、永続的に河北潟の自然の豊かさを享受できる地域の実現を目指していますが、そのためには、地域の子供たちが河北潟の自然の素晴らしさ、おもしろさを身をもって体験し、自らが関心を深めていくきっかけをつくることが重要と考えています。

そこで、2022年春、河北潟湖沼研究所では「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」に応募しました。このコンテストは、自然体験活動支援事業として、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団が主催しています。コンテストでは、子どもたちの創造力やチャレンジ精神を育む、独創性に富んだ自然体験活動を募集しています。「自然体験活動は子どもたちの体力だけでなく、

おもいやりの心や創造力、チャレンジ精神を育む」との考えのもと、全国の学校や団体から自然体験活動の企画を公募し、審査により50団体が支援団体として選ばれます。企画活動を実施した支援団体の報告書などを基に審査がおこなわれ、優秀な活動団体が表彰されます。応募団体にはチキンラーメン1ケース（30食）がプレゼントされ、50団体に選考されると実施支援金として各10万円が贈呈されるというユニークなコンテストで、自然体験活動が広く推進されることを望まれています。幸いに、本コンテストの支援団体に選ばれ、「河北潟流域まるごと体験」という自然体験活動の企画を練ることができました。河北潟周辺の子どもたちが、河北潟流域の多様な自然に触れ、生きもの、水、人のつながりを体感することができるプログラムです。プログラムは単位制で、8単位以上取得すると「ジュニア河北潟流域レンジャー」として認定されます。5月～10月に10回プログラムを実施し、のべ127人（子ども54人）が参加、4名がジュニア河北潟流域レンジャーとして認定されました。第21回トム・ソーヤースクール企画コンテストにおいて努力賞を授賞し、10万円とチキンラーメン3ケース分を贈呈いただきました。

河北潟流域まるごと体験 2022年 参加募集！

「ジュニア河北潟流域レンジャー」8単位で認定！
いっからでも遅くない！

※すでに終了した6/5、7/24は各1単位、5/22、6/12、8/7は2単位となります。

次回開催 中流の環境と生きもの調査 2単位

2022年8月21日（日） 9:00～15:00

川の中に入って、川にいる生きものを調べます！
中流域の自然と水のつながりを学びます。

場所：能瀬川中流域（午前）、明神川中流域（午後）
もちもの・準備：動きやすく濡れたり汚れたりしてもよい服、靴（サンダルや長靴等）、お弁当、飲み物
※ライフジャケットは主催者が準備します。
※集合場所等の詳細は後日ご案内します。

河北潟のカヌー体験・湖で活動

2022年9月4日（日） 9:00～12:00

津幡川がそそぐ「河北潟」でカヌー体験し、ゴミ拾いします。湖で水遊びし、昔と今の違いを考えます。
場所：河北潟（乗船場：津幡町湖端を予定） 2単位

河北潟のゴミ調査 1日1単位

8月24日（水）、8月25日（木） 9:30～16:00

昔ながらの米作り稲刈り体験

2022年9月23日（金） 9:00～12:00

手刈りして、稲架干します。農業について考えます。
場所：「七重米」の田んぼ（金沢市岸川町） 2単位

河北潟自然再生まつり

2022年10月23日（日） 11:00～12:00

河北潟流域で体験したことを発表いただきます。
場所：こなん水辺公園（金沢市東牧爪町） 1単位
認定式をおこないます。10/23は参加無料！

参加対象：小学5年生以上（保護者同伴の場合は小学1～4年生も参加いただけます。）
大人の方も参加いただけます。

参加費：一人1000円、2人以上でグループ参加の場合一人500円。
申込フォーム <https://www.secure-cloud.jp/st/1646116512krxnGzc>
メール info@kahokugata.sakura.ne.jp
※メールの場合、お名前と年齢、住所、電話番号をお知らせください。
集合場所について：現地または津幡駅（詳細は申込受付後にメールにてご連絡いたします。）

主催 NPO法人河北潟湖沼研究所 協力 津幡の水辺を守る会
〒929-0342 石川（南）河北郡津幡町字北中袋9-9 Tel 076-238-3903 Fax 076-233-6941

Web申し込み！



田んぼでハッタミミズ保全活動を開始 ハッタミミズがすみやすい田んぼづくり

地域住民や子どもたちがハッタミミズを通して、ハッタミミズが生息する環境の大切さや、地域への愛着を深めるために、ハッタミミズのための田んぼをつくり、保全と啓発活動をすすめていきたいとの金沢市からの相談を受け、地主さんの協力を得て「七豊米」の田んぼをもう一枚増やし、ハッタミミズの保全活動をはじめることとなりました。2022年6月5日に、「ハッタミミズがすみやすい田んぼづくり」イベントをおこないました。3組の親子が参加し、泥だらけになっても楽しい体験学習イベントとなりました。

ハッタミミズは泥深い田んぼに生息することから、田んぼとして維持することを基本とし、部分

的に耕さないところや、湿地として維持するところ等をつくり、ハッタミミズがすみやすい状態を模索しながら活動をすすめていく予定です。農薬不使用、化学肥料不使用とし、有機肥料を施しました。2022年は5月22日に田植え（手植え）、8月18日に草取りと生きもの調査、9月23日に稲刈り（手刈り）をおこないました。田んぼの約3分の1は田植えをしないでハッタミミズをはじめとした生きものの場所としています。そこは子どもたちがのびのびと泥んこ遊びできる場所にもなります。湿地の大切さおもしろさを体感できるハッタミミズの保全活動、たくさん子どもたちに参加いただきたい活動です。（文：川原奈苗）



生きもの元気米 KFu96の田んぼ

当団体でつくっている「生きもの元気米」、今年で6年目をむかえました。収量が少ないので試行錯誤していますが、今年は、すずめ野菜の畑のビニルハウスで苗箱での育苗をおこないました。はじめての試みでしたが、苗づくりの色々な情報を参考にさせていただき、なんとか良い状態に育ちました。昨年この田んぼで収穫したお米を種籾にして、4月16日に塩水選別・温湯消毒、4月22日芽出し完了、ハウスで育苗し、5月12日に田植えをおこないました。



第15回河北潟湖面利用協議会

6月12日、河北潟干拓地にある河北潟農業研修館において、第15回河北潟湖面利用協議会が開催されました。河北潟の湖面利用ルールは、多くの方々に周知されてきており、県外の方々からも高い評価をいただいています。ルールの実行についての確認と、今後の運用や課題について話し合われました。今回は、北陸ランカースナイパーズの山谷勝彦氏より、湖面からみた河北潟の環境の変遷と湖面利用ルールの運用について話題提供いただきました。



「七豊米」田植え体験・観察会

5月22日、青空の下で七豊米の田んぼで田植え体験イベントをしました。はじめに水苗代から苗を取り、苗がある程度とれたところで、田植えに入りました。苗取りをしている時や、田植え中に、長いハツタミズが何匹も見つかり、初めてハツタミズを見る方も多く、その長さに驚いていました。今年から田んぼが1枚増え、3枚になりました（3ページ参照）が、一日で田植えを終えることができました。

6月12日には除草・観察会イベントをおこないました。田植えから三週間がたち、農薬を使っていない田んぼには雑草がではじめています。最初に一列に並んで手で抜き取る作業をおこないました。同時に、手押しの除草機を使っ



河北潟流域ゴミ調査結果をパンフレットにまとめました

2021年度に河北潟や河北潟に流れ込む川で実施したゴミ調査の結果をパンフレットにまとめました。パンフレットはエフピコ環境基金より助成をいただいで制作しました。

編集後記

通信かほくがたvol.28は、活動報告を中心に4ページ版で発行することとなりました。vol.28を早急に発行し、vol.29からは2023年の活動記事とともに連載を再開します。(N)